

1. 活動の概要

7月7日(水)、雲南市立大東小学校で『心に残る文化財子ども塾』を開催しました。

はじめに、子どもたちは体験活動の「まが玉づくり」と関連して、小学校のまわりにある遺跡について地図を見ながら県古代文化センター職員の話の聞きました。大東高校は拡張工事のたびに遺物が発見されて、古墳時代の人々が玉作りに挑んだことを学んでいました。

雲南市教育委員会からは、大東高校付近で見つかった、玉作りに関係するものを含む貴重な遺物をお借りすることができました。玉が装身具として使われている様子を、埴輪の写真等から学習しました。スタッフが(わざとでなく)矢印を入れ忘れた箇所で、玉が使われているを見つける児童もいました。

次は「まが玉づくり」の体験です。子どもたちはまず四角い素材をレンガで削り始めました。平面形をだまかに仕上げた後、角ばった部分を削り落して断面形を丸くする工程へ移る際に苦勞するケースが多いのですが、半分以上の児童がスムーズに移行していました。仕上げでは3種類の紙ヤスリを使い分けながら磨いていき、表面をなめらかにします。上手な生徒の磨いたものは、工芸品店の商品の域に達すると思われる色つやで、美しく光っているのが印象的でした。

2. 活動の様子

1) 大東小学校周辺の遺跡や見つかった遺物について知る



「矢印の所に玉が使われています」



大東高校の近くで発見された土器。

2) まが玉づくりの体験



角をおとしていくのは大変！



タイムリミットが近づく中、懸命に磨きをかける。

3. 子ども塾を終えて

1) 児童の皆さんから…

- ・(体験)丸くするだけでたいへんだった。
- ・(もっと知りたいこと)昔の人が作った最も古い物を知りたいです。
- ・(もっと知りたいこと)現場にいていっしょにほりたい。
- ・(もっと知りたいこと)かたい石でもまが玉を作ってみたいと思いました。

2)担任の先生から…

- (よかったこと)貴重な体験を子どもたちができたこと。
- (よかったこと)遺物や遺跡(地域の)などの本物にふれることができたこと。
- 強いて言うと体験目的のつながりがもう少し子どもに伝わると思います。
- 募集の時期と期間をもう少しゆっくりとっていただけると応募がしやすいです。○

3)埋文センターから

古墳時代の大東町に、玉作りに挑戦した人たちがいました。大東高校周辺で発掘された玉作遺物は、当時の大東人の奮闘を物語っています。

今日の体験活動では、職人の血を引く(?)みなさんが、1500年ぶりに玉作りに挑戦しました。本来の玉作は、瑪瑙などの硬質の石や砥石を使います。長い修練が必要だったと思います。「文化財子ども塾」では、レンガや棒やすりを、材料が一番軟らかい滑石を使うなど、いろんな部分でやり方を簡単にしています。今日は「入門編の入門編」といいぐらいの内容なのですが、第1回目にしてはとても手際がよく、早い人が多かったです。上手な人が磨いた玉は、工芸品店の商品みたいな色つやで、「プロ並だなー」と思ったものです。

クラスの中で何人かは大東高校へ行く人が出てくるかもしれません。そのとき、学校の下に眠っていた先人の痕跡に思いをはせてもらえるとうれしいです。